

2013/6/18

中国において荒廃地の緑化・環境復元と土地利用に関する共同研究を開始

応用地質株式会社(東京都千代田区、社長:成田 賢)は、2013年6月18日、中華人民共和国の清華大学*美術学院建築環境芸術設計研究所と、錫林郭勒盟永聯商貿有限公司との間で共同研究を行うことについて、意向書を締結いたしましたので、お知らせいたします。

共同研究は、「内モンゴル自治区の荒廃地の生態環境復元・土地利用に関する技術研究」であり、目的は以下のとおりです。また研究期間は約3ヶ年を予定しています。

<研究の目的>

本研究の目的は以下のとおりです。

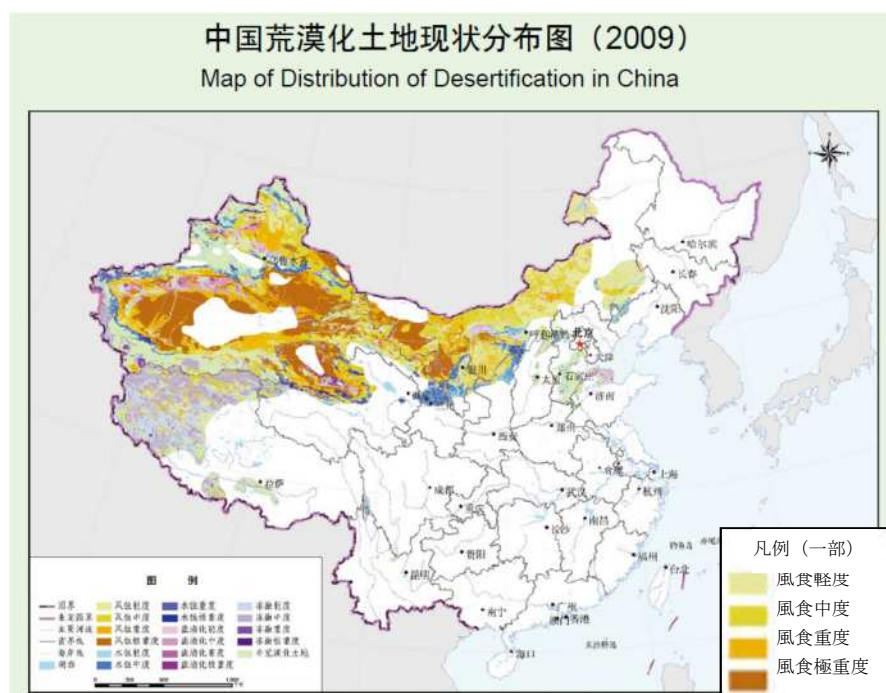
- 1) 荒廃地における「地盤や地下水調査解析などによる適切な土地利用計画」技術の構築
- 2) 現地に適応可能な種及び植栽方法の検討
- 3) 荒廃地における緑化・生態環境復元の実証実験と事業化の検討

<研究の背景>

中国では、経済発展に伴い、土地の沙漠化が進行しており、大きな問題となっています。

また、北京や日本で、黄砂が多く観測される原因のひとつに、内陸部での沙漠化の進行が挙げられています。

中国政府では、中央林業投資として、2011年に1,220億元(約1兆9,000億円)、2012年に1,400億元(約2兆2,000億円)を投資し、林業および砂漠化防止に力を注いでいます。



「第四次 中国荒漠化および沙化状況公報」より引用

* 清華大学は、中華人民共和国の国家重点大学の一つ。(The Times Higher Education による「世界大学ランキング 2012-2013」で、中国本土では北京大学に次ぐ第2位の評価を獲得。)

＜予察的現地概査＞

2013 年 5 月下旬～6 月にかけて、予察的に現地概査を行いましたので、現地の写真を下記に示します。今後は、植栽を含めた実証試験を、内モンゴル自治区東烏珠穆沁旗などで行う予定です。



急速に沙漠化が進行している草地の状況



植栽しても成林していない状況



草原における電気探査



草原におけるピット壁面調査

＜リリースに関する問合せ＞

応用地質株式会社 社長室 川地真人

TEL:03-3234-0811(代)